

幼児の稽古事に関する調査研究

赤 田 博

(武庫川女子大学文学部教育学科)

The Study on the Infants Preschool Learning and Training

Hiro Akada

Department of Education, Faculty of Letters,

Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663, Japan

The aim of this study was to survey the actual conditions of infants preschool learning and training. Two surveys were administered:

1. The survey of the infants who came up to the Attached Kindergarten of Mukogawa Women's University, by interviewing their parents
2. The survey by questionnaires to the students at Mukogawa Women's Junior College, on their infant learning and training.

緒 言

最近、幼児期から稽古事をする子供が多くなってきた。経済の高度成長、高学歴志向、核家族化、少子家族化など諸々の社会環境の変化や、豊かな文化環境に取り巻かれた社会の中で、幼児の稽古事が一層盛んになってきたようである。それは、稽古事が幼児や母親にとって魅力ある存在であるからなのであろう。事実その道の専門家になるためには、幼児期からの稽古事が絶対必要であるということも多い。また専門家にならなくても、心の潤いを稽古事を通して得ることも多い。しかし一方、他の幼児より早く、より高い教育を身につけさせ、競争社会の中で少しでも有利な条件を得させておきたいという親の願いが強く働き過ぎて、その陰で、幼児達の伸び伸びした生活が、脅かされると危惧を抱き、非難する声もでてくる。このように賛否両論ある幼児期の稽古事を、個性的な自由な家庭教育の一つであるとして幼児教育にたずさわる者が無関心でいてよいのであろうか。そこでこの度、幼児の稽古事について調査研究し、その実態を把握し、幼児教育を考える資料にしたいと思う。

目 的

本調査研究では、稽古事の変遷の実態と、稽古事をした幼児、しなかった幼児の側の意識の実態を、幼児の親と、短期大学生を通して把握し、稽古事についての問題と理解、今後の幼児教育の在り方を探るものである。

方 法

- 「A」親の調査
- 1) 調査対象—武庫川女子大学附属幼稚園に3歳から、また4歳から入園を希望する幼児の親
延べ人数 3歳入園希望者339人 4歳入園希望者456人 計795人
 - 2) 調査時期—1981年から1992年の12年間 毎年10月下旬
 - 3) 調査方法—1対1の口答面接 面接者は武庫川女子大学附属幼稚園園長、武庫川女子大学・短期大学部教官5名 質問内容は各教官に印刷(本設問は46問中No.46)配布
 - 4) 調査内容—附属幼稚園で行なっている〈入園前の幼児の親との面接〉の中から、No.46質問「貴方のお子様は稽古事をしていますか、それは何ですか」の回答のみを対象にする

- 「B」学生の調査 1)調査対象—本学短期大学教育学科幼児教育専攻2年生(19歳—20歳)230人
 2)調査時期—1993年6月—7月下旬
 3)調査方法—質問用紙配布 回収法(無記名)
 4)調査内容—6問設定 1] 幼児期(2歳—5歳)に稽古事をしたか 2] 誰が決めたか
 3] どのようなものを何歳から何歳までしたか
 4] したことについて、しなかったことについてどう思っているか
 5] あなたの子供に幼児期から稽古事をさせたか 6] 自由記述

結果と考察

本研究対象の幼児に関する内容は「A」とし、学生に関する内容は「B」として、結果と考察を述べる。

1. 稽古事をする幼児数の推移状況は年々増加の傾向を示し、経済的要因との関係が深いと思われる。

「A」1981年から1992年間の調査延べ人数は795人である。そのうち稽古事を「している」「していない」の答の1981年から1992年までの経過は、Table 1で示す通りである。「している」総数は389人で延べ人数の48.93%であり、約半数を占めている。即ち2人に1人は稽古事をしていることになる。産まれてまだ2—3年しか経っていない幼い子供が、これだけ多くの稽古事をしている。そしてそれはこの12年間、大体増加の傾向を示してきている。

Table 1. The number and percentage of infants who had preschool learning and training
(3 to 4 year—old—infants coming up to AK of MWU)

人数 (%)

年	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	計
している	11 (32.35)	21 (38.89)	24 (33.80)	22 (31.88)	26 (32.91)	34 (44.74)	35 (50.72)	32 (52.46)	53 (68.83)	48 (68.57)	48 (64.00)	35 (58.33)	389 (48.93)
していない	23 (67.65)	33 (61.11)	47 (66.20)	47 (68.12)	53 (67.09)	42 (55.26)	34 (49.28)	29 (47.54)	24 (31.17)	22 (31.43)	27 (36.00)	25 (41.67)	406 (51.07)
全幼児数	34(100)	54	71	69	79	76	69	61	77	70	75	60	795(100)

1967—1970年に実施された『特殊才能開発のための教育に関する基礎的研究¹⁾』の調査によれば、幼稚園児に何かを習わせている者は28.2%で3割弱であると記載されている。しかし、その後10数年経た1981年の本学附幼の調査では、幼稚園に入園するまでの3—4歳入園希望者が対象であるが、稽古事を「している」は32.35%の3割強になり、更に10数年を経た1992年の「している」は58.33%と過半数を占めるようになった。ここ20数年間で稽古事をする幼児数は年々増加の傾向を示している。

「B」武庫川女子短期大学生に対する「幼児期(2歳—5歳)に稽古事をしたか」の質問への回答はTable 2である。彼女達の幼児期は大体1976年—1979年にあたるが、稽古事を「している」66%は「していない」33.9%の約2倍もの高値を示している。もとより、これは女子のみが対象の調査であるが、参考となる数値であると考え

Table 2. The number and percentage of students who had preschool learning or training

している	152名	66.09%
していない	78名	33.91%
計	230名	

「A」本学附幼の、稽古事を「している」「していない」の12年間の変遷をみると、1981年には、稽古事「している」のは32.35%で約3分の1がしていたのが、12年後の1992年には58.33%にも上昇し、2分の1以上の幼児がするようになってきている。しかし一番多いのは1989年で68.83%にも上昇し、稽古事を「している」方が半数をかなり上回り、していない方が少なくなっている。そして「している」が「していない」を追い越したのは1987年である。この時期は『1992年度経済白書²⁾』によると、1986年から始まった大型景気が1987年—1990

幼児の稽古事に関する調査研究

年にかけて、大幅に上昇し、1991年後半から後退期にはいっているという日本経済の動向とよく合致して、稽古事も1987年—1990年にかけて急速に伸びを示し、1991年以後は徐々に下降を示している。このように、両者が同じようなカーブを描くのは、稽古事と経済的要因との間に相関関係があることを物語っているようである。

2. 幼児期の稽古事は「運動的性格の強いもの」と「芸術的性格の強いもの」が中心になっている。

「A」本学附幼の稽古事の種目1981年—1992年の集計はTable 3である。「している」389人が471件の稽古事をしているという結果が出ていることは1人で2—3している幼児もいることが分かる。その内訳を1967—1970年の『特殊才能開発のための教育に関する基礎的研究³⁾』の調査分類に準じて「運動的性格の強いもの」「芸術的性格の強いもの」「実用的性格の強いもの」「知的性格の強いもの」に分ける。

本学附幼の調査では、一番多いのは「運動的—」で56.90%も占めており、中でもスイミングが42.25%と圧倒的に多い、次ぎは「芸術的—」の36.73%であり、中でも音楽教室とピアノが多い。これに対し、「実用・知的—」は僅か6.37%である。現代の幼児期の稽古事は運動と芸術が中心になっている実情である。

これを先の『特殊才能開発のため—』の資料と比較してみれば当時は「芸術—」87.3%「実用—」9.9%「体育—」1.6%「知的—」0.8%で、現在最多のスイミングは見当たらない。現在の運動の伸びの大きさは、オリンピックやスポーツのマスコミでの華やかな報道や、それに付随する「〇〇教室」の出現と関係し、稽古事は情報社会と商業ペースに結び付いて発展してきていると思われる。それならば、稽古事は一時の流行に左右されない親の主体的な考えが基盤になって選択されていく事を望みたいと思う。

「B」学生の幼児期(1976年—1979年)における稽古事の内容はTable 4である。稽古事の種目は、現在の幼児のそれとほぼ似ている。幼児の稽古事はここ10数年、表面的には大きい差はないことが分かる。しかし、ここでは「運動的—」14.88%よりも「芸術的—」が65.12%と圧倒的に高い。これは本学学生が女子のみであるからではないかと思われる。ついで「実用・知的—」が、20%で、「運動的—」14.88%を抜いている。

3. 稽古事は男女の性差があることを示している

「A」男女稽古人数・%(幼児)の結果はTable 5である。男女別に比較すると、全体的に女兒の方が多い。男児が上回るのは1982年と1991年のみである。それ以外の10年間は全て女兒が上回っていることがわかる。稽古事の総集計と比較してみても女兒53.07%で男児43.36%の約10%近く上回っている。

1967年—1970年に行われた『特殊才能開発のための教育に関する基礎的研究⁴⁾』の資料と比較してみれば、何かを習っている子供は、いずれも女兒が多いことが記載されている。その資料の幼稚園の場合は7割が女兒であり、小学校低学年の場合でも6割あまりが女兒である。と記載されているが、現在に至ってもなお同じ傾向がみられ、幼少期の稽古事は女兒が多いことを示している。

Table 3. kinds of learning and training (3 to 4 year—old—infants coming up to AK of MWU)

稽古事種目 (「している」389人内訳)		1981—1992年集計数		
		f	%	小計%
運動的 性格の 強いもの	スイミング	199	42.25	56.90
	体操教室	68	14.44	
	剣道	1	0.21	
芸術的 性格の 強いもの	音楽教室	107	22.72	36.73
	ピアノ	28	5.94	
	バレエ	21	4.46	
	舞・能・仕舞	5	1.06	
	リトミック	2	0.42	
	バイオリン	1	0.21	
	絵画	9	1.91	
実用・知的 性格の 強いもの	習字	3	0.64	6.37
	英語	12	2.55	
	教育センター	15	3.18	
計		471	100	

Table 4. kinds of learning and training that the students had in their infant days

稽古事種目		f	%	小計%
芸術的 性格の 強いもの	ピアノ	96	44.65	65.12
	バレエ	5	2.33	
	エレクトーン	19	8.84	
	リトミック	1	0.47	
	オルガン	4	1.86	
	バトン	2	0.93	
	日舞	4	1.86	
	絵画	9	4.19	
運動的 性格の 強いもの	スイミング	23	10.70	14.88
	体操教室	9	4.19	
実用・ 知的 性格の 強いもの	習字	35	16.28	20.00
	珠算	3	1.40	
	英語	3	1.40	
	学習塾	2	0.93	
計		215	100	

(無記入 7)

Table 5. The number and percentage of infant girls and boys who had preschool learning and training

年		1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	計
男	稽古している %	29.41	40.91	32.26	30.00	27.91	41.38	37.93	38.10	62.96	67.86	66.67	54.55	43.36%
	人数	5	9	10	12	12	12	11	8	17	19	20	12	147
	全男人数	17	22	31	40	43	29	29	21	27	28	30	22	339
女	稽古している %	35.29	37.50	35.00	34.48	38.89	46.81	60.00	60.00	72.00	69.05	62.22	60.53	53.07%
	人数	6	12	14	10	14	22	24	24	36	29	28	23	242
	全女人数	17	32	40	29	36	47	40	40	50	42	45	38	456

Table 6. Kinds of learning and training and their

percentage (3 to 4 year-old—infants coming up to 1985年の山口市内の『幼児とけいこごと』の調査でも、男児(42.6%)より女児(67.4%)のほうが多いとある。

本学附幼の調査では稽古事をさせている理由の上位5位は次のようである。

1. 本人がやりたがる 男 20.55% 女 50.91%
2. 友達つくりのため 33.33 10.91
3. 健康のため 13.89 10.91
4. 親子で楽しむ 5.55 5.45
5. 情操を育てる 2.78 3.64

このように一番最多は「本人がやりたがるから」であり、男児 20.55% に対し女児 50.91% となっており、女児は自分自身で習いたいと望む者が多いようである。

稽古種目		男		女	
		f	%	f	%
運動的 性格の 強いもの	スイミング	93	71.20	106	47.74
	体操教室 剣道	38		31	
芸術的 性格の 強いもの	音楽教室	39	23.91	125	44.95
	ピアノ				
	バレエ				
	舞・能・仕舞 リトミック バイオリン 絵画	5		4	
実用・知的 性格の 強いもの	習字	2	4.89	1	7.31
	英語教室 教育センター	7		20	
計		184	100	287	100

「A」種目別の男女件数の調査結果は Table 6 である。男児が大きく上回っているのは、「運動的」で 71.20% であり、女児 47.74% を大きく上回っている。しかし女児も運動が一番多く、特にスイミング、体操教室に人気があり、幼児にとっては、身体を存分に動かす活動的な内容が受け入れ易いことがよく現れている。さらに「芸術的」は女児 44.95% が男児 23.91% を大きく上回っている。

先にあげた Table 4 の学生に於ける「芸術的」の 65% には及ばないが、女児の「芸術的」の優位が示されている。付記するならば学生の音楽が 60% もの圧倒的な高位を占めているのは、この調査対象が幼児教育専攻の学生であり特にピアノなど音楽が重視される学科を対象としたからであろう。他学科ではまた違った結果が出るかもしれない。

「B」学生について「あなたの子供が男なら、女なら何をさせたいか」の質問にたいする回答は Table 7 である。「子供に幼児期から稽古事をさせたい」は 52.61%—121 人 (Table 14) である。その内訳は重複回答の中で、「女ならさせたい」が 90.08%、「男ならさせたい」が 73.55% で、ここでも女優位である。自分が女性だから習わ

Table 7. Kinds of learning and training the students want to offer to their own children

% (人数)			% (件数)																			
男ならさせたい	無記	計	運動的 性格の強いもの								芸術的						実用・知的		計			
			種目	スイ	スポ	野球	サッ	ラグ	剣	体	馬	テニ	ビ	音	エ	バ	バレ	舞		絵	習	珠
73.55	26.45	100																				
(89)	(32)	(121)	(36)	(24)	(8)	(9)	(2)	(3)	(3)	(1)	(1)	(8)	0	0	(2)	0	0	(1)	(6)	(3)	(2)	40.98
計			32.70(87)								4.14(11)						4.14(11)		(109)			
女ならさせたい			(17)	(5)	0	0	0	(1)	(5)	0	(1)	(83)	(4)	(2)	(1)	(19)	(1)	0	(13)	(3)	(2)	59.02
90.08	9.92	100	10.90(29)								41.35(110)						6.77(18)		(157)			
(109)	(12)	(121)																	総件数 100%(266 件)			

(スイ=スイミング・スポ=スポーツ・サッ=サッカー・ラグ=ラグビー・剣=剣道・体=体操・馬=乗馬・テニ=テニス・ビ=ピアノ・音=音楽・エ=エレクトーン・バ=バイオリン・バレ=バレエ・舞=日舞・習=習字・珠=珠算・公=公文)

幼児の稽古事に関する調査研究

せたいものが明確であるが男性については不明である、ということもあるかも知れない。また、男児の「無記」が26.45%に対して、女児の「無記」は9.92%であり、女児がかなり少ない数値を示し、女児に稽古事をさせたい方が多い。その理由については何れも無記入で不明であるが、自分達が歩んで来た流れにそって考えているのではないと思われる。

習わせたい内容は、男児に「運動的」が32.70% 女児には「芸術的」が41.35% その中でもピアノが圧倒的に多い。ここでも女優位であり、女児の「芸術的」優位の考えが出ている。こうしてみれば幼児期の稽古事は女児に多くさせ。そして男児には運動を、女児には音楽を習わせたい、という20年来余り変化せず続いてきた図式は、今の学生が親になっても、まだまだ続くということが予測される。

『平成元年 NHK 世論調査全国小学生4—6年とその父母対象のアンケート調査』によると「稽古事で男子が多いのは〈野球、ソフトボールのクラブ、スイミング、サッカーのクラブ〉であり、女子が多いのは〈ピアノ、電子オルガン、習字、そろばん〉となり男女の領域ははっきりと分かれている。この違いは意識の面にも現れ、男子は遊び欲求が強く、女子は友人や知識の欲求が強い。これは親が、男子には〈よい成績をとるように〉プレッシャーをかけるのでその反動もあり遊び欲求が強くなるのに対して、女子には〈思いやりを大切に円満な人間関係をつくる〉ことを求め勉強のプレッシャーが弱い分、逆に勉強に対して積極的になり遊びのびと生活を楽しむようになるので、親の育て方の意識の問題にもなるのではないか」ということである。このように、無意識のうちに、「親は子育ての中で伝統的な男らしさ、女らしさに近いものをそれぞれの子供に求めているのかも知れない。その環境のなかで男女の性差が育まれていく面も多いのであろう。」と述べている。

4. 稽古事は低年齢化し、継続年数についてはピアノが一番多いことを示している。

「B」学生について「何歳から何歳まで稽古事をしたか」の質問にたいする回答は Table 8 の通りである。稽古事を3歳から始めた者は21.40%、4歳からの者は38.14%、5歳からの者は40.47%であり年齢が高くなるに従って増加している。1967年—1970年の『特殊才能開発のための教育に関する基礎的研究』の資料には「音楽についてみれば、ごく稀に2—3歳から始めたケースもあるようだ」と記載されているが、本学学生の3歳から始めた者は20%以上もあり、稽古事の低年齢化の実態を示している。

さらに継続については、数年でやめてしまった者が多い。年限契約、期間契約、健康上などの都合で止めざるを得ない場合もあるが、稽古事への意欲が継続につながる場合が多いと考え、10年以上継続した者を、みたのが Table 9 である。3歳から10年以上継続した者は20人で、そのうちピアノが13人で一番多い。4歳から10年以上継続した者が21人で、これもピアノが一番多く14人である。5歳から10年以上継続した者は22人でこれもまたピアノが13人で一番多い。稽古事として意欲をもって取り組むものとしてピアノの占める割合が高いことを示している。

学生の記述に「長期継続していると、それなりに上達し趣味、特技に

Table 8. The year and length of the preschool learning and training the students had

種目	3歳から	人数	小計	4歳から	人数	小計	5歳から	人数	小計
ピアノ	-4歳	1		-5歳	1		-6歳	1	
	-7	1		-6	1		-7	1	
	-8	1		-7	1		-10	2	
	-10	3	25	-8	1	30	-12	7	41
	-12	6		-10	3		-13	12	
	-13	3		-11	1		-14	4	
	-14	1		-12	5		-15	6	
	-15	4		-13	3		-17	3	
	-17	2		-14	2		-19	2	
	-19	3		-15	3		-現	2	
			-16	2		-不明	1		
			-17	3					
			-18	4					
バレエ	-6	1		-5	1		-6	1	
		1		-8	1	3			1
				-19	1				
エレク ト ーン	-5	1		-5	1		-7	1	
	-7	1		-6	1		-8	1	
	-17	1	4	-7	1	8	-9	1	7
	(不明)			-11	1		-11	1	
	-現	1		-14	1		-15	1	
			-18	2		-19	1		
			-現	1		-不明	1		
リト エ ック	-5	1	1			0			0
オル ガ ン			0	-5	2		-7	1	
				-6	1	3			1
パ ン ト			0	-5	1				
				-12	1	2			0
日舞				-5	2				
			0	(1は琴)	1	4			0
				-10	1				
			-18	1					
絵画	-5	1		-5	4				
	-6	1	3	-8	1	6			0
	(2-8)	1		-9	1				
体操 教室	-4	1		-5	3		-6	1	
	-5	1	2	-6	1	5	-9	1	2
			-不明	1					
スイ ミン グ	-5	1		-5	3		-6	3	
	-12	1		-6	2		-7	1	
	-14	1		-11	1	8	-8	2	
			3	-13	1		-9	1	12
			-19	1		-11	2		
						-15	1		
						-不明	2		
習字	-12	1		-7	1		-8	3	
	-15	2		-8	2		-9	4	
	-現	1		-10	2		-10	1	
			4	-11	1	11	-11	2	20
			-12	5		-12	3		
						-13	1		
						-15	2		
						-16	1		
						-18	2		
						-不明	1		
珠算	-13	1				0	-10	1	
		1					-15	1	2
英語	-5	1		-9	1				
		1		-12	1	2			0
学習 帳	(2-7)	1	1			0	-11	1	1
計		46	(21.40%)		82	(38.14%)		87	(40.47%)

Table 9. The number of students who continued their preschool learning and training over 10 years

10年続いた人数	内 訳
3歳から13歳以上 20人	ビ13 習3 エ2 ス1 珠1
4歳から14歳以上 21	ビ14 エ4 ス1 舞1 パ1
5歳から15歳以上 22	ビ13 習5 エ2 ス1 珠1
計 63人	ビ40人(63.49%)

ビ-ピアノ 習-習字 エ-エレクトーン ス-スイミング
珠-珠算 舞-日舞

Table 10. The persons who encouraged the students to have their preschool learning and training

父	1.97%	3人
母	25.00%	38
祖父	0.66%	1
祖母	0.66%	1
自分	31.58%	48
父・母	11.18%	17
母・自分	19.74%	30
母・祖母	1.32%	2
父・母・自分	3.95%	6
不明	3.95%	6
計	100.00%	152人

なって自信に繋がる]「一回始めたら続けるようにさせたい」「中途半端でやめないようにさせたい」など継続の大切さにふれている者が多数である。継続により得た自信は将来の職業選択にもつながり、今後の人生に有利になると考えるのであろう。

5. 稽古事は「楽しさ」「有意義」と関係が深い

「B」学生について「稽古事を決めたのは誰か」に対する回答は Table 10 の通りである。稽古事を決め方は「自分」31.58% で一番多い。ついで「母」25.0%。次ぎに「母・自分」19.74% である。母と自分に関係する3つを合計すれば、76.32% にもなり、幼児期の母親との繋がりの深さが伺われる。稽古事のみならず人生の方向づけについても母親の役割の重大さを確認することができる。それに対して「父」の関与しているものは1.97% と「父・母」11.18% 更に「父母・自分」の3.95% で3つの合計は17.1% に過ぎず母の遙か下位を示している。幼児期は、直接的には父親の影響は少ないようである。

「楽しさ」との関係 Table 11 によると、稽古事が「楽しかった」と答えた者は36.84% もいて「いやだった」12.5% の約3倍もいる。多くの者が健全な状態で「楽しんで」取り組んでいたことが分かる。この「楽しかった」と答えた者は「自分でできた」が一番多く、次いで「母」「母・自分」と答えた者が多い。決める時に「自分」が関与し、自主的に自分で決めることが「楽しさ」に影響していくようである。

自由記述の中に「自分から言い出して始めたので楽しんでやれた」「自分でやりたいと思うことが何より大切だ」「興味のあるものをさせる」「楽しんでやれることをさせる」など楽しさと自分の意志との関係や「教育方法や先生を選ぶことが大切だ」「教えかたが楽しいと身につく」など楽しさを導き出す方法や教え方の大切さを実感としてとらえているものが多い。しかしその反面「いやだった」12.5% も見逃せない数値である。楽しければ自分で学習するが、嫌々なら自己学習をしない。従って叱られたり、強制されたりして、受身でやらされることになる。稽古事で、かえってマイナス態度が身につくことにもなりかねない。自由記述の中に「意志がないのに無理にやらされるのは苦痛」「自然に興味が出る迄待てばよい」「強制すると苦しみになる」「親のエゴで習わせられたが逆効果になった」「親だけの気持ちで習わせるのはよくない。」という意見も多い。このように、自分が無視さ

Table 11. The number and percentage of students who enjoyed their infant learning and training

楽しかった	36.84%	56人
いやだった	12.50%	19
どちらでもない	15.79%	24
楽しい、いや、どちらもあった	8.55%	13
楽しい、いや、どちらでもない、の全部	0.66%	1
無記	25.66%	39
計	100.00%	152人

Table 12. The number and percentage of students who think their preschool learning and training were meaningful

有意義だった	59.21%	90人
無意味だった	1.97%	3
無 記	38.82%	59
計	100.00%	152人

無理にやらされるのは苦痛」「自然に興味が出る迄待てばよい」「強制すると苦しみになる」「親のエゴで習わせられたが逆効果になった」「親だけの気持ちで習わせるのはよくない。」という意見も多い。このように、自分が無視さ

幼児の稽古事に関する調査研究

れて一方的に親の意志だけで押しつけられる苦痛や、親への反発を述べている。

「稽古事の有意義・無意味」の質問に対する回答は Table 12 である。有意義が 59.21% で、無意味 1.97% を遙かに越えている。多くの者はプラス思考をしている。その理由は「生活に幅が出来た」「一生の趣味が出来た」「自分を高めるものに出会えた」「嫌々したが今になって重要さが分かった」「学習に自信が出来た」「友達が出来た」など、その道のエキスパートになった者は勿論、意義を認めているが、ならなかった者も「人間としての成長」など多面的にその意義を認め、稽古事がうまくいけば、このように結構づくめになっていくようである。無意味 1.97% に於けるマイナス評価は「多くやりすぎて何も身に付かなかった」「習い事が多過ぎたためか、習う事が嫌に

Table 13. Of the students who didn't have any preschool learning and training, the number and percentage who think their choice was correct

稽古事をしなかったグループ 78人	しなくてよかった	29.49%(23人)
	したほうがよかった	17.95%(14人)
	どちらでも関係ない	44.87%(35人)
	無記入	7.70%(6人)
	計	100.00%

Table 14. The number and percentage of students who want their own children to have preschool learning and training

% (人数)	稽古事をしたグループ	しなかったグループ	計
させたい	61.18(93)	35.90(28)	52.61(121)
させたくない	6.58(10)	20.51(16)	11.30(26)
どちらでもない	30.92(47)	42.31(33)	34.78(80)
不明	1.32(2)	1.28(1)	1.30(3)
計	100.0(152)	100.0(78)	100.0(230)

なった「英語を長期やったが身に付かなかった、幼児期には意味がないように思う。」など本人自信の適性を考えず、親の一人よがりによる稽古事の無意味さを述べている。ここで「無記」38.82% も見逃せない数値である。手放しで有意義、無意味と認めるわけにはいかず、どちらとも言えないと言う者がかなりいることを示している。要するに本人次第、やり方次第ということであろう。

稽古事をしなかったグループの回答「稽古事をしなくてよかったか」は Table 13 である。「どちらでも関係ない」が一番多く 44.87% である。その意見は「本人がしたいと言えば、させればよいし、したくなければ、しなくてよい、要するに本人次第である」に殆ど要約される。ごく自然な意見である。次いで「しなくてよかった」が多く 29.49% である。その意見は「伸び伸びと遊ぶことが出来てよかった」「近所の友達と遊べて楽しかった」「好きなように遊ばせてもらってよかった」「小学校に入ってからでも遅くない」に要約される。自分の生き方を肯定的にとらえ、堂々と主張する姿勢が見えて頼もしい。しかし自分は稽古事をしなかったのに「したほうがよかった」と考えている者が 17.95% もある。

6. 「あなたの子供に稽古事をさせたいか」については「させたい」が優位を示している

「B」学生について「あなたの子供に幼児期から稽古事をさせたいか」の質問にたいする答は Table 14 である。幼児期に稽古事をしたグループでは、自分の子供にも「させたい」が一番多く 61.18% である。自分の経験を子供にも伝えていこうとする意識が出ているようである。次いで「どちらでもない」が 30.92% 「させたくない」は 6.58% と少なくなっている。

稽古事をしなかったグループでは、「どちらでもない」が一番多く 42.31% を示している。これは「子供に応じて考えたい」と慎重な態度をとっている者が多い。次いで「させたい」が多く 35.90% もいる。自分はしなかったが、したほうがよかったと思っている者が多く答えている。ついで「させたくない」が 20.51% とかなり少なくなっている。しかしこれは、稽古事をしたグループのそれと比較すれば、14% も上回った数値である。自分が稽古事をしなかった者が「しなくてよかった」と肯定し、自分の子供にも「させたくない」という意見になるのである。

こうしてみれば、自分の子供に「させたい」は、両方のグループを合わせると 52.61% も示し半数を越えることになる。世代が移り、彼女達が親になれば、益々、稽古事への拍車がかかりそうな数値である。

(赤 田)

しかしここに少数ではあるが「させたくない」の数値も見逃せない。両方のグループを合わせた割合は 11.30% を占める「どちらでもない」が 34.78% をしめている。彼女達は一時の流行にとらわれず、子供の主体性を考えていこうとする貴重な存在となるであろう。

まとめ

以上「稽古事の実態」と「稽古事をしてきた者の意識」について調査に基づき検討してきた。その結果かなり幼児期における稽古事の具体的事項が見えて来た。主な点を要約すると次ぎのようにまとめることができる。

- 「A」
1. 現在の幼児の稽古事は、幼稚園に入園する迄の2—3歳児で40—50%以上、過半数が経験している実態が明らかになった。また将来は益々増加していくであろうと予測される。
 2. 幼児期の稽古事は、男児よりも女児の方が圧倒的に多く習っている。
 3. 稽古事の種目は、時代によって変化していくものもあるが、幼児期は男女共に、運動的性格の強いものが一番多く、その中でも男児は、スイミング、体操教室に、女児は芸能的性格の強い者が一番多く、中でも音楽教室が盛んであり男女の性差が認められる。幼児期の発育発達の特徴から考えると性差は、親の側からつけているものが多いのであろう。これについては今後の課題として考えたい。
- 「B」
1. 継続の長期のものはピアノである。
 2. 稽古事の決定は子供が自分で主体的に決めたり、母と子供が一緒に決めるものが一番多く、そのためか、楽しんで稽古事をしている者が多い。しかし一方親本位の無理な稽古事には、強い反対の意見も出ている。
 3. 稽古事を、有意義と捉らえている者が多い。自信、意欲に繋がり、人間としての成長に役立つものであることを、多くの者が認めている。従って自分の子供にも「させたい」という意見が多く出ている。しかし、一方無意欲は無意味に通じ、本人の意欲の有る無しで、功罪相半ばするといえよう。親が稽古事をさせるについては、子供の成長発達を正しく捉え、本人に適した内容を選択する心構えがなければならない。これなくしては、幼児期の子供にとって危険性が潜むことを示している。

今後の課題

稽古事がこれだけ発展するのは緒言でも書いたように、少子化、遊び場不足、友達を求める幼児の欲求、親の育児能力など、諸々の要因が複合的に存在していると思われる。そのような中で稽古事が多くの幼児の生活の一部になっている実態を認めざるを得ない。このうちは、幼児の本来の生活が保障されるように、親の教育への姿勢が問われる必要がある。今後「幼児の生活の在り方と稽古事について」一層検討する必要があると考える。

今回の調査を終えるにあたっては、若干の問題を残している。1.本学・園の調査を中心にしたために、多くのデータが求められなかった。2.調査方法については「入園面接」という特異な状況の中で行われたため、その回答を額面どおりに肯定できるかどうかは疑問である。今後これらを是正し、広範囲に調査し深く検討したい。

最後になりましたが、武庫川女子大学附属幼稚園の12年間の貴重な資料を提供調査させていただき、よい研究ができましたことを、ここに感謝申し上げます。

文 献

- 1)4) 竹内儀彰・豊島覚城『早期教育への提言』法律文化社 P88(1970)
- 3) 同上 P90(1970)
- 7) 同上 P111(1970)
- 2) 「92年度経済白書」『朝日年間データブック 1993』朝日新聞社 P152(1993)
- 5) 保育年報 1986年版 日本保育学会『幼児とけいこごと』フレーベル館 P99(1985)
- 6) 『NHK 世論調査資料集第6集』 P1308(1989)